

2016年7月18日（月・祝）

震災・復興とリスクマネジメント（ ○ ） 国際都市神戸と世界の文化（ ） 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ（ ） グローバルサイエンスと拠点都市神戸（ ） その他（ ）

SGH 仙台交流プログラムの一環としての淡路島・北淡震災記念公園研修

目的：阪神・淡路大震災の傷跡がそのまま残されている野島断層保存館を訪れ、当時の震災についての知識を深める。

参加生徒の感想

4年 Kくん

北淡震災記念公園には初めて行ったのですが、畑の地面がスッパリとずれていたり、道路が亀裂だらけだったりする写真を見て、これが本当に起こっていたとは思えませんでした。その後、実際の断層を見てもあまり実感がなかったのですが、地震の体験をして初めてこの野島断層の恐ろしさを実感しました。それに、語り部の方のお話の映像を見て、被災者の心情なども知ることができ、良い体験が出来たと感じています。そして、私達がこの災害を忘れず、次の世代へ伝えることができる様に、もっと学習を深めていきたいと思います。

5年 Sさん

今回訪れた野島断層は有名な阪神淡路大震災の遺構の一つです。修学旅行等で多くの人が訪れるのか、小中校から送られた千羽鶴が飾ってあり、そこには仙台からのものもありました。起こった年や被害は違えど同じ『地震の被災地』間の繋がりを感じました。

5年 Yくん

今日の淡路フィールドワークは自分にとって野島断層に行けたことがとても大きかったです。身近にあるのに今まで行ったことがなかったので地元で起きた災害を知るのにいい機会になったと思います。また、人数は少なくなりましたが、DR3の親睦も少しは深まったのではと思うので、良かったです。

4年 Sさん

実際に、自分の目で活断層や当時の写真・様子を見ることよって、その場にいたかの様に思えました。又、揺れを体感することで震災の恐ろしさを実感しました。これらのことから、地震の恐ろしさを知らない人々に、備えの必要性等を伝える為、今後も奮闘していきたいと思います。

5年 Iさん

入り口に入るとまず、目に入ってくる大型トラックの転倒したものが目に入ってきました。すごく衝撃的でありながらも、伝えていくときには言葉は必要なく、たったひとつのものでも影響を与えることとなります。次には野島断層が震災当時のまま残している展示室へ行くと授業で受けた説明がそのまま形として残っていて、残された部分は家屋が倒れてはいなかったのですが生活できないほどの痕跡でした。その中で断層のずれの影響を受けず、当時の姿のまま残っている住宅を見学しましたが、その住宅の家庭は裕福な家庭であったと記載されており、やはり特殊なタイプなのだなと感じました。何かの物事には背景があり、もっと他のものことについての背景・どうしてそうなったのか考えていきたいと感じました。また、参加メンバーが皆自分から興味を示している姿勢が目に見て感じる事ができたので、この良い雰囲気が今日参加できなかったメンバーにも流れていければと思います。

5年 Tさん

私にとって初めての、北淡震災記念公園、地震の大きさを体感すること、断層のずれを見ることでした。写真や映像からの自分のイメージの中だけだったものにとっても驚いたとともに、恐怖を感じたというのが私の素直な感想です。

4年 Tさん

21年経っても、はっきりと震災の被害状況が残されていて、淡路の人々の「残さなければならない」という思いからのこの形が身に染みしました。私たち以外の多くの見学者が「あの頃は…」と振り返る姿を見て、何年たっても絶対に忘れない使命を被災者が被災者自身にさりげなく与えているのだと分かりました。

4年 Oさん

野島断層に行き、震災のもたらした光景を初めて目の当たりにし、自然のエネルギーの大きさと地震の恐ろしさを改めて実感した。この地面のズレが多く被害をもたらしたと思うといたたまれず、何とか予知して災害を少しでも減らすことができないものかと思った。



明石港から船で淡路島へ向かいました



島内はバスで移動です



北淡震災記念公園では、QRコードも活用しながら学習しました



はじめて見る野島断層です



当時の様子がそのまま残されているメモリアルハウスを見学しています



記念撮影